



社行民わい 社報民わい (第一三四號) 地一町四市平 人行設報民わい 己克輝千 人務報民わい 除六日限月日 刊月日 價一円二角五分

糸姫募集に崇る食糧難 受入側も應募側も共に二の足

食糧不足に依る危機は凡ゆる國糸姫側もどうせ詰つてゐる折柄 民生活面に幾多の支障を齎らし苦勞するならば何れも他に於てまで 得ぬ影響を來し、見返り品のば食ふだけなら何とかなるといふ 手取を占める製糸紡績関係にもつた態度で出過ぎを望まず、親 及して平働勞務でもこればかりか達も出したからぬ有様に、折角 は対策の方法もないと頭痛の委員の努力もさつぱり効果 卷でゐる、同業では糸姫募集のをあげ得ずにはゐるとあり、同業 徹底を期するために、繊維勞務でも食糧問題にはすつかり崇ら 處理委員會を結成、募集に大れ、このまゝでは勞務關係の圓 童の活動を續けてゐるが、受入側も食糧問題には糸姫問題に關せ れ工場側も食糧問題の解決からす凡ゆる部面の大きな痛となつ かねば折角の糸姫も受入れて望み得ないと叩つてゐる 兼ねてゐる状態であり、更に

小名濱港修築實施か 町を擧げて最後の猛運動中

小名濱町では例の港第二期修築猛運動を試みたが、内務當局で 工事の進捗實現を期するため、その重要性を認めて居り、現 議會召集中を幸に長瀬助役が鈴在の空気で二百二十萬圓の工 本、佐藤、立花の三町議と同道費の計上提案は間違ひなく、實 十五日午前四時五十分同町議列現の可能性充分との嬉しい情勢 車で上京、内務、大藏兩省を始 にあるとある

大道異變

▼アメリカでは生後十八ヶ月に▼教育の事業は、大理石を刻ん して保育所に入つて、自治、協で自分の精神を具体化するやう 同の精神が教へこまれるといふものがあるが、佛像を作るか かに於ける深い責任感を持つて居 意志によつて決定する 観念を持つて生活してゐるの も、如何に自粉をぬつて見て だから、家庭が學校であり保育 内面的な、本質的なものが純化

平保線區勞組強化

十七日結成大會新役員も決る 平保線區及び各分區の常務線高 秋驛迄、警備線小川郷迄、勞働 組合では十五日各區毎に大會を 開いて、今後勞組の一層強力な 發展を期するため、各分區打つ て一九としての強力なる勞組を 結成するに決定、新役員も左の 如く選出したが、十七日平市公 會堂日本間にこの新勞組結成大 會を開催大いに氣勢を擧げるこ とに決つた

英靈還る

十六日湯本町へ 湯本町榮田出身故海軍大佐佐分 利内氏、傾城四〇故海軍二等 機關兵曹渡邊傳氏、天王崎一 八故海軍機關兵長平三郎氏三 住の英靈は十六日午前十一時五 分湯本着陸で歸還した

飲食店も納税奉公

十日總會で役員改選さる 平稅務署管内遊興飲食協助力會 の總會は十日午前九時から小名 濱町天狗食堂に開き役員を次の 如く改選、社會的に誤解され易 じ營業だけに各自自衛自戒し、 納稅奉公することを申合せた、 尙平稅務署からは加藤署長、佐 藤副署長等臨席し、協力方を 要する處あつた

矢吹町長

バトンを渡邊氏へ 残した功績の数々 湯本町長矢吹莊司氏はいよいよ 十六日満期となり公選まで町長 澤良一(平保線區助役笠井道 義)勿來保線區分長)根本友恵のバ ン(保線工師草野英一)建築工 師)遠藤眞美(保安係)幹事 藁谷昌徳(保線工師)石川房次

飛込み自殺

平市北白銀町徳妻武田忍(二〇) 才拙小路際道入口で十五日午 後四時五十分平發郡山行列車に 飛込み腹部から真二つに横断さ れ即死、原因は家庭の不和

木炭増産協議

石城地方事務所では十六日午後 一時から郡市各町村林産係員を 召集、平市公會堂日本間で木炭 増産協議會を開いた

赤井支部結成

警備隊民主人民聯盟赤井小川支部 は去る十四日赤井國民學校に結 成式を擧げたが、支部長には草 野茂氏が推された

食油の配給

軍の特殊物資として食用油が近 くに市郡下に配給される、期日は 未定なるも一人約八、三勺の割 とあるから客月分位の割當の見 込み、總量二百六十石とある

泉に引揚

泉村引揚者 泉村引揚者 泉村引揚者 泉村引揚者 泉村引揚者

夏季洋裁講習會

日時會場 八月一日より五日迄平市田町警備文化學園 講習科目 婦人物物一般 松本美代子先生(元東京文 化服装學院教師、現在當學園教師) 一、講習科 金二十圓(申込用紙は當學園に請求の事)

高級檢建具販賣

板戸、障子 其他建具類 六八腰高戸 其他建具類 即時お求めに應ず 詳細は當社に御照會を乞ふ 平市三丁目電二〇二二〇八番

平土地住宅有限會社

平土地住宅有限會社

不當利得十四萬圓

鹽魚類の關二件檢舉さる、 穀類貸加工業 統制組合結成 江名町大字水崎宇川端六六農業 乘海産物加工業凡間敬太郎(三 五)は郡山市内一二二協同組 合郡山海産物市場に對し食用鹽 乾魚介類たる鹽製品千二百九十 四圓六百八圓十圓七圓を二樓上 四圓六百八圓十圓七圓を二樓上 四圓六百八圓十圓七圓を二樓上 四圓六百八圓十圓七圓を二樓上

飛込み自殺

平市北白銀町徳妻武田忍(二〇) 才拙小路際道入口で十五日午 後四時五十分平發郡山行列車に 飛込み腹部から真二つに横断さ れ即死、原因は家庭の不和

矢吹町長

バトンを渡邊氏へ 残した功績の数々 湯本町長矢吹莊司氏はいよいよ 十六日満期となり公選まで町長 澤良一(平保線區助役笠井道 義)勿來保線區分長)根本友恵のバ ン(保線工師草野英一)建築工 師)遠藤眞美(保安係)幹事 藁谷昌徳(保線工師)石川房次

飲食店も納税奉公

十日總會で役員改選さる 平稅務署管内遊興飲食協助力會 の總會は十日午前九時から小名 濱町天狗食堂に開き役員を次の 如く改選、社會的に誤解され易 じ營業だけに各自自衛自戒し、 納稅奉公することを申合せた、 尙平稅務署からは加藤署長、佐 藤副署長等臨席し、協力方を 要する處あつた

小名濱港修築實施か

小名濱町では例の港第二期修築 猛運動を試みたが、内務當局で 工事の進捗實現を期するため、そ の重要性を認めて居り、現 議會召集中を幸に長瀬助役が鈴 在の空気で二百二十萬圓の工 本、佐藤、立花の三町議と同道 費の計上提案は間違ひなく、實 十五日午前四時五十分同町議列 現の可能性充分との嬉しい情勢 車で上京、内務、大藏兩省を始 にあるとある

大道異變

▼アメリカでは生後十八ヶ月に ▼教育の事業は、大理石を刻ん して保育所に入つて、自治、協で 自分の精神を具体化するやう 同の精神が教へこまれるといふ ものがあるが、佛像を作るか かに於ける深い責任感を持つて 居 意志によつて決定する 観念を持つて生活してゐるの も、如何に自粉をぬつて見て だから、家庭が學校であり保育 内面的な、本質的なものが純化

平保線區勞組強化

十七日結成大會新役員も決る 平保線區及び各分區の常務線高 秋驛迄、警備線小川郷迄、勞働 組合では十五日各區毎に大會を 開いて、今後勞組の一層強力な 發展を期するため、各分區打つ て一九としての強力なる勞組を 結成するに決定、新役員も左の 如く選出したが、十七日平市公 會堂日本間にこの新勞組結成大 會を開催大いに氣勢を擧げるこ とに決つた

英靈還る

十六日湯本町へ 湯本町榮田出身故海軍大佐佐分 利内氏、傾城四〇故海軍二等 機關兵曹渡邊傳氏、天王崎一 八故海軍機關兵長平三郎氏三 住の英靈は十六日午前十一時五 分湯本着陸で歸還した

飲食店も納税奉公

十日總會で役員改選さる 平稅務署管内遊興飲食協助力會 の總會は十日午前九時から小名 濱町天狗食堂に開き役員を次の 如く改選、社會的に誤解され易 じ營業だけに各自自衛自戒し、 納稅奉公することを申合せた、 尙平稅務署からは加藤署長、佐 藤副署長等臨席し、協力方を 要する處あつた

飛込み自殺

平市北白銀町徳妻武田忍(二〇) 才拙小路際道入口で十五日午 後四時五十分平發郡山行列車に 飛込み腹部から真二つに横断さ れ即死、原因は家庭の不和

木炭増産協議

石城地方事務所では十六日午後 一時から郡市各町村林産係員を 召集、平市公會堂日本間で木炭 増産協議會を開いた

赤井支部結成

警備隊民主人民聯盟赤井小川支部 は去る十四日赤井國民學校に結 成式を擧げたが、支部長には草 野茂氏が推された

食油の配給

軍の特殊物資として食用油が近 くに市郡下に配給される、期日は 未定なるも一人約八、三勺の割 とあるから客月分位の割當の見 込み、總量二百六十石とある

泉に引揚

泉村引揚者 泉村引揚者 泉村引揚者 泉村引揚者 泉村引揚者

夏季洋裁講習會

日時會場 八月一日より五日迄平市田町警備文化學園 講習科目 婦人物物一般 松本美代子先生(元東京文 化服装學院教師、現在當學園教師) 一、講習科 金二十圓(申込用紙は當學園に請求の事)

高級檢建具販賣

板戸、障子 其他建具類 六八腰高戸 其他建具類 即時お求めに應ず 詳細は當社に御照會を乞ふ 平市三丁目電二〇二二〇八番

平土地住宅有限會社

平土地住宅有限會社

不當利得十四萬圓 鹽魚類の關二件檢舉さる、 穀類貸加工業 統制組合結成 江名町大字水崎宇川端六六農業 乘海産物加工業凡間敬太郎(三 五)は郡山市内一二二協同組 合郡山海産物市場に對し食用鹽 乾魚介類たる鹽製品千二百九十 四圓六百八圓十圓七圓を二樓上 四圓六百八圓十圓七圓を二樓上 四圓六百八圓十圓七圓を二樓上 四圓六百八圓十圓七圓を二樓上

飛込み自殺 平市北白銀町徳妻武田忍(二〇) 才拙小路際道入口で十五日午 後四時五十分平發郡山行列車に 飛込み腹部から真二つに横断さ れ即死、原因は家庭の不和

矢吹町長 バトンを渡邊氏へ 残した功績の数々 湯本町長矢吹莊司氏はいよいよ 十六日満期となり公選まで町長 澤良一(平保線區助役笠井道 義)勿來保線區分長)根本友恵のバ ン(保線工師草野英一)建築工 師)遠藤眞美(保安係)幹事 藁谷昌徳(保線工師)石川房次

飲食店も納税奉公 十日總會で役員改選さる 平稅務署管内遊興飲食協助力會 の總會は十日午前九時から小名 濱町天狗食堂に開き役員を次の 如く改選、社會的に誤解され易 じ營業だけに各自自衛自戒し、 納稅奉公することを申合せた、 尙平稅務署からは加藤署長、佐 藤副署長等臨席し、協力方を 要する處あつた

小名濱港修築實施か 小名濱町では例の港第二期修築 猛運動を試みたが、内務當局で 工事の進捗實現を期するため、そ の重要性を認めて居り、現 議會召集中を幸に長瀬助役が鈴 在の空気で二百二十萬圓の工 本、佐藤、立花の三町議と同道 費の計上提案は間違ひなく、實 十五日午前四時五十分同町議列 現の可能性充分との嬉しい情勢 車で上京、内務、大藏兩省を始 にあるとある

大道異變 ▼アメリカでは生後十八ヶ月に ▼教育の事業は、大理石を刻ん して保育所に入つて、自治、協で 自分の精神を具体化するやう 同の精神が教へこまれるといふ ものがあるが、佛像を作るか かに於ける深い責任感を持つて 居 意志によつて決定する 観念を持つて生活してゐるの も、如何に自粉をぬつて見て だから、家庭が學校であり保育 内面的な、本質的なものが純化

平保線區勞組強化 十七日結成大會新役員も決る 平保線區及び各分區の常務線高 秋驛迄、警備線小川郷迄、勞働 組合では十五日各區毎に大會を 開いて、今後勞組の一層強力な 發展を期するため、各分區打つ て一九としての強力なる勞組を 結成するに決定、新役員も左の 如く選出したが、十七日平市公 會堂日本間にこの新勞組結成大 會を開催大いに氣勢を擧げるこ とに決つた

英靈還る 十六日湯本町へ 湯本町榮田出身故海軍大佐佐分 利内氏、傾城四〇故海軍二等 機關兵曹渡邊傳氏、天王崎一 八故海軍機關兵長平三郎氏三 住の英靈は十六日午前十一時五 分湯本着陸で歸還した

飲食店も納税奉公 十日總會で役員改選さる 平稅務署管内遊興飲食協助力會 の總會は十日午前九時から小名 濱町天狗食堂に開き役員を次の 如く改選、社會的に誤解され易 じ營業だけに各自自衛自戒し、 納稅奉公することを申合せた、 尙平稅務署からは加藤署長、佐 藤副署長等臨席し、協力方を 要する處あつた

飛込み自殺 平市北白銀町徳妻武田忍(二〇) 才拙小路際道入口で十五日午 後四時五十分平發郡山行列車に 飛込み腹部から真二つに横断さ れ即死、原因は家庭の不和

木炭増産協議 石城地方事務所では十六日午後 一時から郡市各町村林産係員を 召集、平市公會堂日本間で木炭 増産協議會を開いた

赤井支部結成 警備隊民主人民聯盟赤井小川支部 は去る十四日赤井國民學校に結 成式を擧げたが、支部長には草 野茂氏が推された

食油の配給 軍の特殊物資として食用油が近 くに市郡下に配給される、期日は 未定なるも一人約八、三勺の割 とあるから客月分位の割當の見 込み、總量二百六十石とある

泉に引揚 泉村引揚者 泉村引揚者 泉村引揚者 泉村引揚者 泉村引揚者

夏季洋裁講習會 日時會場 八月一日より五日迄平市田町警備文化學園 講習科目 婦人物物一般 松本美代子先生(元東京文 化服装學院教師、現在當學園教師) 一、講習科 金二十圓(申込用紙は當學園に請求の事)

高級檢建具販賣 板戸、障子 其他建具類 六八腰高戸 其他建具類 即時お求めに應ず 詳細は當社に御照會を乞ふ 平市三丁目電二〇二二〇八番

平土地住宅有限會社

